



なつかみの郷

祝祭日は国旗「日の丸」を揚げましょう
「続日本紀」という古い書物(大宝元年・七〇一年)に「日像」の文字がすでにみえ、その後歴代天皇、諸国大名によって太陽をかたちどった旗が盛んに用いられ、安政元年(一八五四年)には、「日の丸」が日本総船印として江戸幕府より各大名に布告されました。
つづく

奈加美神社
第2号
平成19年秋号
10月1日発行
泉佐野市中庄834
電話462-7080

秋祭りを終えて

奈加美神社 宮司 北岡忠澄

奈加美神社の周りの田んぼも、八月末から九月にかけて黄金色の稲穂が頭を垂れ、秋風にそよそよと揺られ、素晴らしい田園風景があらにこちらに見られました。ありがたい事です。

本年は十月七日に目出度く秋祭りを迎え、午前九時よりご本殿に於いて町内会長を始め役員各位のご参列のもと慈無く例祭を斎行致しました。多くのギヤラリーが見守るなか、まず上瓦屋、次いで中庄の順にだんじりの宮入があり、その曳き廻しや「ソリーヤ」の掛け声も勇ましく、笛や鉦、太鼓の音を聞くと、自然と胸に熱くこみあげてくるものがあります。祭りっていいですよ。

私の里は岬町の産土神社でして、周りは田んぼばかりで子供の頃から田園風景は当たり前でしたが、学生時代は家を離れ、大阪市内・東京都内で数年過ごしましたので、たまに里に帰ったときや旅先で目にする収穫時期の田んぼが、すごくあざやかに新鮮に映ったのを覚えています。今まで当たり前にあつたものが、少し距離を置くことによって大切なものだったんだなあ、と気づかされる事が多々あります。

お米は言うまでもなく、古来より我々日本人の大事な主食で、大陸から伝わった稲作は弥生時代もしくは縄文時代の頃に始まったとされています。籾から苗になり、花をつけ、お米になるまでには、お百姓さんの日々の農作業はもとより、太陽の恵み、大地の恵み、水の恵みがなくてはなりません。秋祭りは秋の稔りの豊穰と自然の恵み、即ち神さまの御恵みに感謝するお祭りです。

この泉州地域では秋祭りと言えばたっくさんの「だんじり」や「やぐら」が賑やかに繰り出しますが、我々農耕民族である日本人はその根底にあるもの、意味合いを忘れてはなりません。昔は農作業に従事している方も多く、しぜんと秋の恵みに喜びを感じあつたのですが、現在に至っては生活も豊かになり、物・食が溢れかえるなか、ややもするとお祭り騒ぎが先に立って、大切なことを置き去りにしてしまっている感も否めません。

この伝統のあるだんじり祭りを後世に継承して行くためには、祭の意義をしつかり理解し、祭りを通じて日々の自然の恵みへの感謝の気持ちをおこす必要があるのではないのでしょうか。

「たなつもの 百の木草も あまてらす

日の大神のめぐみえてこそ」

(江戸時代後期国学者 本居宣長)



第二回 奈加美神社菊花奉納展

菊づくり一筋三十五年、中庄の山東克巳さんによる菊花の奉納です。大菊三本仕立て段飾りを始め、だるま作り、補助作りなど、十月下旬から十一月下旬頃まで見事な菊花が境内を彩ります。

昨年、山東さんの菊づくりの噂を聞きつけ、総代さんを通じて奉納のお願いをさせて頂いたところ、「お宮さんのことだから」と快く承諾して頂きました。

昨年は第一回目でしたが、ちようどこのころは七

五三の時期に重なりますので、晴れ着を着たお祝いのお子さんご家族が、きれいに咲いた菊を背景に楽しそうに写真を撮っている風景をよく見かけ、参拝者の方々も皆さん口々に「きれいやなあ！すごいなあ！見事やなあ！」と感嘆の声をあげていました。山東さんは一日の殆どを菊づくりのビニールハウスで過ごし、水やり、管理が気になり旅行にも行かない程の菊一筋の大ベテランです。今までも様々な菊花展に出品され、多くの賞を頂いておられます。お話をさせて頂く時はいつも菊を娘さんに喻えて、「菊を出品するときは、毎日毎日手塩にかけて育てた娘を嫁がせるようなもんや。」などと、こよなく菊を愛するお人柄がうかがえます。

そんな大事な娘さんを頂くわけですから、神様もさぞお喜びのことでしょう。皆様、是非お立ち寄り下さい。

七五三参りのご案内



七五三については、三歳の男女の場合は髪置（かみおき）といって、頭髮を伸ばし始めることを、五歳の男子の場合は袴着（はかまぎ）といって、初めて袴を着用することを、七歳の女子の場合は帯解（おびとき）といって幼児用の紐を解き、大人と同じ帯を用いることを表す儀式に由来します。神様に今まで無事に過ごしてきたことを感謝し、今後も健やかに成長することをお祈りします。

奈加美神社改称百周年記念事業

ご奉賛のお願い

明治四十二年に中庄・上瓦屋・湊の頭仮名文字を綴り合わせて「奈加美神社」と改称されてより迎える平成二十一年二月を以って目出度く百周年の記念を迎えることとなり、去る八月七日に各町内会から選出されました役員の方々に「奈加美神社改称百周年記念事業に際しての「奈加美神社奉賛会」設立奉告祭並びに総会を開催し、漸く奉賛会が発足いたしました。「百周年記念事業趣意書」も整い準備も着々と進んでおります。氏子皆様方には改めまして各町内会を通じてご奉賛のご依頼をさせて頂く所存でございます。

皆様方の暖かいご支援とご協力を賜りたく、何卒宜しくお願い申し上げます。

事業概要

第一期工事（平成二十年着工）	社務所新築
第二期工事（平成二十一年着工）	拝殿修復及び各所修繕
事業総額	七、五〇〇万円
神社醸出額	三、〇〇〇万円
募財目標額	四、五〇〇万円

今後の行事予定

十月下旬～十一月中旬	菊花奉納展
十一月中	七五三参り受付
正月三ヶ日	新年祈禱お祓い受付
一月九日～十一日	戎さん
一月～二月	厄除け厄祓い受付 (福笹、吉兆授与)



七五三参りのご案内

祈禱料 5000円より

御守・千歳給・知恵おこしと好きなおもちゃを一つお選びいただきます

数え年・満年齢どちらでも受付いたしております。

お電話にてご予約お申込み下さい。

神道豆知識 ～其の貳～ 神社でのお参りの作法は？



神社での参拝作法は、一般的には「二拝二拍手一拝」の作法（二度おじぎをして、二度拍手をして、一度おじぎをする）でお参りします。この作法に統一されたのは明治の初期の頃であり、それ以前は神社、流派により多少のばらつきがあったようです。この作法は我が国の伝統的な「両段再拝」の作法に基づくものです。

「両段再拝」とは再拝（二度おじぎをする）を二回おこなう作法をいいます。

拍手については、古くから我が国独自の拝礼作法として、神様や貴人を敬う表現として用いられました。これらの作法を合わせて「二拝二拍手一拝」の作法に統一されました。ただし、伊勢神宮は八拍手、出雲大社や宇佐神宮では四拍手など、古来からの特殊な作法を受け継いでいる神社もあります。